



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2020.10

No.439

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



### 書を持って、引きこもろう

大井智弘（さいたま市）

5月、コロナ禍で世の中の空気は異様に息苦しかった。そんな中、私の体に異変が起きた。左肩から腕に掛けて激痛が走ったのだ。診断は「五十肩（歳はプラス10なのに）」。双眼鏡も上げられない、スコープなんて担げない。さらに外出は激減し、心がすさんだ。世間ではオンライン飲み会で繋がろうなんて騒いでいるが、自分で考える時間が欲しい私にはどうでもよかった。

そこで、昔、寺山修司の『書を捨てよ、町へ出よう』という本があったが、私は「書を持って、引きこもろう」と決めた。一冊目は、『鳥はなぜ鳴く？ ホーホケキョの科学』松田道生（著）。ウグイスのさえずりを解き明かしながら野鳥の鳴き声について掘り下げ、日本人の自然観や感性についても語り尽くす名著であった。

次は、都市鳥研究の第一人者である唐沢孝一氏の『身近な鳥のすごい食生活』。野鳥たちの食生活を切り口に、その生存戦略を解説する興味深い一冊であった。書中に当会の山部直喜氏が案内人として登場していた。

最後は『美の進化論』リチャード・O・ブラム（著）。著名な鳥類学者が「鳥類自身の目から見た鳥類の美」という視点から進化について論じる重厚な一冊であり、著者の野鳥に対する愛情が感じられた。

5月末に外出すると、ウグイスのさえずりが聞こえて来た。その時、一瞬だが肩の痛みを忘れることができた私は、やはり「双眼鏡を持って、町へ出よう」と思ったのであった。



ウグイス（大井智弘）

### 誰かの役に立つかしら

近藤龍哉（上尾市）

思いついて、埼玉の鳥のチェックリストの中文名版を作ることにした。中国語圏の人と鳥見をする機会があったので、私のフィールドガイドには、中文名が書き込んである。その延長で、いっそ中文名のチェックリストを作ったらと思ったのだ。

手に入れておいた中国や台湾の野鳥図鑑があるし、山階鳥類研究所の『世界の鳥の和名』シリーズの『中国の鳥（改訂版）』（1983）もある。これは、『世界鳥類和名辞典』（山階1986）を作るときに、それに先行して出版されたもので、和名の索引から中文名が引ける。

手順としては『日本鳥類目録改訂第7版』にあたり、その学名をもとに中国の鳥類リストの中文名を調べればよい。ところがやってみると、持っている辞典や目録類だけでは歯が立たないことがわかった。分類の変更や亜種からの昇格があるからだ。この十数年の変化は実に大きい。調べてみると、中国でも台湾でも、すでに何度も世界の鳥類の中文名リストが作成され更新されていた。さらに世界的に権威のあるリストから中文名を調べることだって、ネットで簡単にできるのだった。

かつてカナダガンの亜種とされていたシジュウカラガンは、中国では短嘴黒雁となり、台湾では小加拿大雁（加拿大＝カナダ）となっている。鄭光美主編『中国鳥類分類与分布名録（第三版）』（2017/12）に、世界的研究の進展に対応して生じる名称の変更についての一節がある。馴染んだわかりやすい名称を大切に、少ない文字で、しかも種名の中に属名も含まれていて近縁関係が連想できる伝統的な名称法を受け継いでいくという宣言だ。なかでも、「中文名は、地方名なのだから、ラテン学名の変化にぴったり合わせなくてよい」という考えには感心した。

さて、中国と台湾それぞれの中文名のチェックリストは出来上がった。中文名は簡潔でいいなあ、とひとり悦に入りつつ、このリストが使われることはあるかしらとも思う。

## 新型コロナウイルス禍の下での分布調査

森本國夫（さいたま市）

「個人的な観察の範囲では3密にならない」、バードウォッチングという趣味を持っていて本当に良かったと感じている昨今である。

調査部で野鳥データベースを担当している身には、久々に実施される野鳥分布調査で威力を発揮できると気合が入った。

野鳥データベースはもともと2005～2010年の野鳥分布調査のデータ分析と分布図作成のためのデータ出力機能を持たせて2014年から開発を始めたものだ。その後、用途を拡大して、探鳥会、野鳥情報、調査、野鳥リポーターのデータ等も記録して活用できるものとした。これは、野鳥の会では「野鳥の生息データを容易に活用できる形にして持つべき」という個人的な思いによるものであった。

3月から4月にかけては、5月から始める野鳥分布調査の準備を行っていた。具体的には、調査報告の様式Excelファイルや関連ファイルについてデータチェックを自動化したりするためのプログラム作成、調査報告関連様式ファイルの説明文の作成等などに取り組んだ。

5月中旬から野鳥分布調査が始まった。探鳥会がないので、もしかしたら個人的な調査に取り組んでもらえるかも知れないと期待した。調査部員としては、情報が得られにくい場所に行きたかったが、自粛期間であり、公園などの閉鎖でトイレも使えないという状況もあったので、普段から観察している自宅に近い場所に出かけるだけとなった。

6月からは自粛が解除されたので、県西部を中心にいくつかの場所を調査した。

7月中旬になって最初の夏季調査期間が終わり、調査データの集まり具合に注目していたが、データの集まりが悪いようで、残念だった。新型コロナウイルスの影響はプラスには働かなかったようだ。報告方法を前回までと変えたことも関係があるかも知れない。

野鳥データベースは、今回の調査で報告書の迅速な作成に威力を発揮すると考えていたが、肝心のデータがあまり集まっていない。今後の調査への会員の皆様のご参加をお願いしたい。

## 本やDVDの貸し出し

佐野和宏（越谷市）

緊急事態宣言中は図書館も閉鎖となり、「野鳥の本でも借りて読んでみようか」と思った方が困っているということを知りました。そこで思いついたのが、「自分の持っている本やDVDを貸し出せないか」ということです。

読みはしない本が100冊以上、DVDやCDもあります。これらがお役に立てるかもしれない。さて、どのように紹介すればいいか…。

まずは、それらの本とDVDやCDを下記のように7項目に分類しました。

### 図鑑、探鳥地紹介、その他、『BIRDER』 雑学、DVD、CD

そして、その項目ごとに書名等を入れて目録が完成。例えば「図鑑」の項目の中を一部紹介するとこんな感じです。

『原色 日本野鳥生態図鑑（水鳥編）』中村登流・中村雅彦 共著

『ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑』真木広造 著

『鳴き声と羽でわかる野鳥図鑑』吉田 巧 監修、岩下 緑 音声監修

『決定版 日本のカモ 識別図鑑』氏家巨雄・氏家道昭 著

『増補新刊 北海道野鳥ハンディガイド』大橋弘一 著

『山溪カラー名鑑 日本の野鳥』高野伸二 著などですが、海外の図鑑も入っています。

次に、この目録をパソコンやスマホでも見やすいようにファイルに加工して準備完了。

これをメールで何名か鳥友に紹介したところ、早速貸し出し依頼が入りました。人気は発行されたばかりの『オーデュボンの鳥』John James Audubon 著。

受け渡しは、探鳥のついでにお届けすることで何とかなっています。そして貸し出しもそろそろ20冊近くになってきました。

この「貸し出し」は、私にとっても予想外のメリットがあることに気が付きました。貸し出し相手から意外な野鳥の生態などを教えられ、「良く知っていますね。勉強になりました」と感心していると、「借りた本に書いてありましたよ」、ということが何度となく。

読みはしない本の知識がどんどん入ってきます。

## 僕の家にコゲラが来た！ 中西悠人（東松山市 中2）



8月19日の朝、窓のすぐそばのキウイの蔓のところでコツコツと音がしたので、見たらコゲラがいました。僕は自分の家の庭にコゲラが来ている事をこの日初めて知りました。

写真は、慌ててスマホで動画を撮り、そこから切り出しました。そっと窓を開けて手を伸ばしてスマホを近づけたのですが、一瞬で逃げてしまいました。

珍しい鳥ではないかもしれませんが、初めてメールを送ってみました。

また来るかもしれないと、一眼レフカメラですぐ撮れるよう準備しているのですが、あの1度きりで現れません。近くにいるのでしょうか。

## 空気の膨張・収縮の実験をしました 山口芳邦（新座市）

8月某日、ある必要性があって空気の膨張・収縮について2Lの薄いペットボトルを使って実験をしました。気体の膨張率は1℃につき273分の1というのは知っていましたが、感覚的に知りたかったのです。

午後3時頃、陽の当たっている塩ビシートが敷いてあるベランダの床にペットボトルを放置。温度計が46.3℃になったところで暑いのに耐えきれずやめて、ボトルのキャップを

閉めました。温度計には直射日光と床の温度も影響しますので実際には50℃近くあったのかもしれませんが。

今度は同じベランダの日陰の部分にボトルと温度計をしばらく放置。温度計は38.7℃でした。ボトルはわずかに凹みました。

次にエアコンが稼働している室内に同様に置きました。27.8℃、ボトルはかなり凹みました。

次に冷蔵庫内に同様に置きました。庫内温度は3.2℃、ボトルは大きく凹みました。

まあ、昨日の実験では空気の温度変化による膨張・収縮を感覚的に確認できましたが、ベランダの暑さもわかりました。

しばらくは蟄居生活が続きそうです。

## ウスバカゲロウの大群 小貫正徳・とみ子（久喜市）

今年は歩いているとウスバカゲロウが例年になく多いと感じていました

7月11日5:00、元荒川に出ると下流から上流に向かうウスバカゲロウの大群です。川面を直径1mの帯状で途切れなく続いています。その数万いや数十万でしょうか

途中ツバメが近寄りましたがあまりの多さにか、たじろぐ様子で飛び去りました。場所は、久喜市菖蒲町下栢間、大御堂橋下流500m先から上流の御陣屋橋にかけてです。

## ツバメチドリとフィールドスコープ 藤原寛治（さいたま市）

先日、春日部のツバメチドリを見てきました。夏羽ではないので、地味ですが。

ツバメチドリと言えば思い出すのは、30年以上前の秋ヶ瀬のシギチ調査。上空をずっと飛び回っていたツバメチドリが遠くに着地。フィールドスコープで見てもよくわからない。40倍にするとピントが合わない。そこで、Kさんが手持ちで使っていたフィールドスコープEDを借りて、三脚に装着。40倍で見たときのツバメチドリの嘴の鮮やかな赤色!!

ツバメチドリとEDは、私にとってセットの思い出です。



## 野鳥情報

**さいたま市大宮区 大宮公園** ◇3月5日、カルガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ♀1、カイツブリ、カワウ2、オオバン4、カワセミ、キクイタダキ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、メジロ、ツグミ、ビンズイ5、シメ2など。3月9日、カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、オオバン、コゲラ、キクイタダキ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、メジロ、ツグミ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、アオジなど。3月16日、カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、オオバン、カワセミ1、コゲラ、キクイタダキ、シジュウカラ、エナガ、ツグミ、ジョウビタキ♂1、シメなど。3月25日、カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ3、オオバン3、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、ツグミ、ビンズイ7、シメ、アオジ♂1♀1など（森本國夫・陽子）。

**春日部市武里 谷原親水広場** ◇3月6日、ホオジロ、カシラダカ、モズ、カワラヒワ、ウグイス、ツグミ、ムクドリ、ヒヨドリなど（長嶋宏之）。

**さいたま市見沼区上山口新田付近** ◇3月7日、キジ♂2（一緒に行動していた。兄弟か？）、オカヨシガモ24（2/24に見た移動中の群れと思われるのがまだいた）、カルガモ6、コガモ4、カイツブリ2、カワウ3、アオサギ1、ダイサギ1、バン5、オオバン（多数）、イソシギ1、カワセミ2、チョウゲンボウ2、モズ3、ヒバリ4（囀る）、ツグミ、ホオジロ2（囀る）、アオジ。3月13日、キジ（鳴く）、オカヨシガモ4、カルガモ4、コガモ10、カイツブリ2、バン4、オオバン（まだまだ多い）、イソシギ1、ハイタカ1、カワセミ2、コゲラ1、チョウゲンボウ♀1、モズ3、ヒバリ5（囀る）、ツバメ1（今季初認）、ウグイス（囀る）、ツグミ、シメ1、ホオジロ、アオジ♂1など（森本國夫）。

**さいたま市中央区の鴻沼川** ◇3月8日、赤山橋付近で雨上がりの曇天の下、ツバメ20+が低空を乱舞（大塚純子）。

**さいたま市緑区上野田** ◇3月8日、道路脇の小さな流れにイソシギとタシギ各1。3月10日、同所でタシギ計5、大きさにかなり個体差あり。3月23日、同所でタシギ2、コチドリ1、セグロセキレイ1。3月24日、ツバメ1飛翔、今季初認（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区 岩槻文化公園** ◇3月6日、ツグミ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、エナガ、アオジ、アカゲラ、アオゲラ、コゲラ、メジロ、シロハラ、ルリビタキ、カケス、ヤマガラ、シメ、カワラヒワ、オオバン、イソシギ、クサシギ、タシギ、ヒドリガモ、コガモ、ダイサギなど。3月18日、ツグミ、ハクセキレイ、アオジ、シジュウカラ、カワラヒワ、ムクドリ、スズメ、ヒヨドリ、コジュケイ、キジバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス、アカゲラ、チョウゲンボウ、カワウ、オオバン、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、コチドリ、セグロカモメなど（長嶋宏之）。

**蓮田市 西城沼公園** ◇3月9日、キジバトが気持ち良さそうに囀っていた。ハシボソガラスが樫木に頻繁に出入りしている。造巢したようだ。2羽のシジュウカラが行く先々で囀りながら、連れ立って行動。オナガが数羽、キンカンのような実を丸呑みにしていた。カケスが屋敷林で騒がしく鳴いた。何かあったのだろうか。3月15日、チョウゲンボウが西から東に飛んだ。3月21日、ウグイスの囀りを今季初めて聞いた。3月26日、午後5時30分頃、久しぶりにコジュケイの囀りを聞いた。まだ健在だったことが嬉しい（長嶋宏之）。

**蓮田市黒浜 国立東埼玉病院** ◇3月9日、林内でカケス5、ヤマガラ5、シロハラ数羽。ほぼシルエットのルリビタキが「ジッジッ」と鳴きながら高い所を枝渡り（鈴木紀雄）。

**蓮田市 黒浜沼** ◇3月9日、木の枝にいたアリスイが飛び去る。他に3ヶ所からアリスイの声。ベニマシコ♀タイプ3、コガモ

50、カワセミ1、オオバン40、バン4、カイツブリ5、タシギ2、オオジュリン、アオジ、ホオジロ、タヒバリなど。3月28日、コチドリ2、バン3、コガモ30、カイツブリ3、ハクセキレイ、アカゲラ♂1、チョウゲンボウのホバリング、ツバメ飛翔（鈴木紀雄）。

**横瀬町 埼玉県民の森** ◇3月12日、ウソ、オオマシコ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、コガラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、コゲラなど（長嶋宏之）。

**草加市柿木町** ◇3月14日、中川河川敷でオオタカ成鳥1、ヤマシギ1、ベニマシコ♂1♀1。ヤマシギは、歩いていたら近くの竹やぶから飛び出した（鈴木 功）。

**越谷市 越谷レイクタウン** ◇3月14日、カンムリカイツブリ夏羽1、ツバメ10±、今季初認（鈴木 功）。

**さいたま市西区 大宮花の丘農林公苑とその周辺** ◇3月15日、マガモ、カルガモ、カワウ、ダイサギ、サシバ5（今季初観察）、カワセミ、アカゲラ、モズ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ルリビタキ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロなど。3月22日、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ツミ?3、オオタカ1、カワセミ、アカゲラ、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、スズメ、ハクセキレイ、シメなど。4月5日、カルガモ、カワウ、ダイサギ、カワセミ、モズ、シジュウカラ、ツバメ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ（足環付き）、シメなど（嶋田富夫）。

**さいたま市緑区三室** ◇3月15日、見沼田圃でヒヨドリ、ツグミ、ハシボソガラス、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、ヨシガモ、コガモ、カルガモ、カワウ、ハクセキレイ、シジュウカラ、ホオジロ、キジバト、スズメ、ムクドリ（陶山和良）。

**さいたま市岩槻区太田1丁目** ◇3月15日、畑仕事をしているとジョウビタキ♀がやってきて近くの枝で尾を振る。耕した畑で採餌（鈴木紀雄）。

**北本市 北本自然観察公園** ◇3月15日、マガモ4、カルガモ8、コガモ10、カイツブリ2、アオサギ、ノスリ1、コゲラ、モズ、カケス、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス（囀る）、エナガ、ツグミ、ジョウビタキ♀1、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ1、ベニマシコ♂♀、アオジ♂1、キツキ科不明種（アオゲラかアカゲラのドラミングが聞こえた）（森本國夫・陽子）。

**さいたま市大宮区(53397501)** ◇3月16日午前11時、大宮第二公園東側の芝川上空でツバメ1。1羽だけで飛び回っていた。当地での今季初認。昨年の当地での初認は、3月29日でした（浅見 徹）。

**上尾市地頭方～平方領領家** ◇3月17日、コジュケイ3、シジュウカラ、ホオジロ、コサギ、コチドリ4、ヒバリ5。上空が騒がしくふと見ると、沢山のカラスの中にチョウゲンボウ3。歩きながらオナガ18、カラヒワ26を確認。ウグイスとキジは囀りの練習中、温かく見守ってあげよう。3月21日、スズメ、メジロ、シジュウカラ、モズ、シメ、ジョウビタキ、キジ、コジュケイ、ツバメ、キジバト、アオジ、ホオジロ、カルガモ、カワセミ、コサギ、セグロセキレイなど。ハクセキレイが鳴いて通り過ぎていく際、風を感じてふと見るとハヤブサが見事に捕獲。ヒメオドリコソウ、ホトケノザ群生地にもムクドリ、カラヒワ、ヒバリ、タヒバリ、ツグミが混在（村越百合子）。

**さいたま市見沼区膝子** ◇3月17日、オオカラモズ1。多数のバーダーの姿、相変わらず。パトカー出動騒ぎも起きているようで心配だ。ヨシ原でホオアカ、カシラダカ、オオジュリン、モズなど。3月25日、オオカラモズとバーダー、相変わらず。木の頂にコチョウゲンボウ♂若鳥1。オオカラモズは、3月26日午後5時30分が終認となった（鈴木紀雄）。

**戸田市～さいたま市桜区 彩湖** ◇3月18日、管理橋南でユリカモメ、オオバン。彩湖北端でキンクロハジロとホシハジロの混群約180、カンムリカイツブリ9（陶山和良）。

**羽生市 羽生水郷公園** ◇3月18日、ヨシガ

モ、マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、カワセミ、アリスイ1(嘴を地面に突っ込んでいた様子だった。ミミズでも探していたのだろうか)、モズ、ヒバリ(囀る)、ウグイス(囀り練習中)、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ♂1、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、オオジュリン(まだ冬羽)、ホオジロ、カシラダカ、アオジなど(森本國夫・陽子)。

**鴻巣市大間一丁目** ◇3月19日午後2時過ぎ、上空をツバメが1羽、鳴きながら飛ぶ。今季初認、春が来た(榎本秀和)。

**越谷市 越谷レイクタウン** ◇3月20日、大相模調節池でツバメ1(長野時彦)。

**さいたま市 鴨川** ◇3月21日、島根橋～学校橋でコチドリ2、コガモ30+、ヒドリガモ16、ハシビロガモのペア、カイツブリ、バン、オオバン、カワセミ、イソシギ、ツバメ、ツグミ、アオジ。シメ6、上空を鳴きながら通過、ウグイスの囀りなど(大塚純子)。

**吉見町 八丁湖公園** ◇3月21日、コジュケイ(囀る)、オシドリ♂1♀1、マガモ30±、カルガモ10±、ホシハジロ♂1、キンクロハジロ4、カイツブリ4、カンムリカイツブリ2、オオバン、オオタカ、カワセミ、コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ(囀る)、ヒヨドリ、ウグイス(囀る)、メジロ(囀る)、スズメ、シメ、アオジ、ガビチョウ(森本國夫・陽子)。

**さいたま市岩槻区 岩槻文化公園** ◇3月21日、アカゲラ♀1出現。ベニマシコは声のみ。元荒川でヒドリガモ40ほどの群れ。エナガの尾が左向きに反ったまま。営巣がんばったらしい(鈴木紀雄)。

**さいたま市桜区 大久保農耕地** ◇3月25日、昨秋の台風の影響で泥が田に入っている。用水にタシギ1、わずかに残ったヨシにオオジュリン3。別のヨシ原でタシギ2、1羽は体を上下にゆすって採餌。ある水田1ヶ所にコチドリ16。チョウゲンボウ飛翔(鈴木紀雄)。

**さいたま市桜区 秋ヶ瀬公園** ◇3月25日、子供の森で林床のシメ約30の群れ、一斉に飛び立つ。警戒心が強い。草原にアカハラ、シロハラ各1。どちらも第1回冬羽。アカゲラ♀1が木をつつき、オオタカ成鳥が飛んだ(鈴木紀雄)。

**熊谷市筑波** ◇3月21日午前6時過ぎ、インヒヨドリ。朝、個人探鳥に行くべく熊谷駅に向かう途中で聞き慣れない声。もしやと思ひ声の主を探すとインヒヨドリだった。♂の綺麗な個体。しばし楽しむ。勿論、電車は一本遅らせました。他にイワツバメ、チョウゲンボウなど(大畑祐二)。

**川越市 伊佐沼** ◇3月22日、ツルシギ、オオハシシギ、オジロトウネン、アオサギ、ダイサギ、ヒドリガモ、ハシビロガモ。カルガモ、コガモ、コチドリ、カワセミ、イソシギ、カンムリカイツブリ、カイツブリ、ツバメ。コチドリの数が多かった。ペアの相手を探すのか追いかけてこが沢山見られた(内田克二)。

**久喜市菖蒲町下相間** ◇3月25日午後5時45分、ツバメ3。今季初認(小貴正徳)。

**坂戸市 浅羽ピオトープ** ◇3月28日、キレンジャク2(写真)。3月31日、オオタカ成鳥1、アオゲラ1、クロジ♂2(鈴木 功)。



表紙の写真

**スズメ目ヒタキ科ノビタキ属ノビタキ**

これは一昨年10月に撮影。昨年は台風19号による冠水で十分な撮影ができなかった。今年を楽しみだ。 徳名貴房(さいたま市)



## 10月から、まずは完全予約制の探鳥会から 開催します。 普及部

### 長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月17日（土）～18日（日）

詳細は、9月号をご覧ください。

※ 以下3件の探鳥会も予約制です。コロナ禍の下でも、探鳥会が開けないか考えた末での試験的な開催です。予約制にして参加人数を絞ることにより、ソーシャルディスタンスを維持しやすくするなどして、感染のリスクを極力抑えようという趣旨です。従って、予約なしでの参加はできません。

3件共通の開催要項は次のとおりです。

1. 日本野鳥の会埼玉会員限定の事前予約制とし、多数の場合は、抽選で10名程度の参加人数とする。
2. 申し込み方法は、コロナ感染状況に（メール等で）迅速に対応するため、当会HPからの申し込みとする（10月初旬に、HPに申し込み様式を掲載する予定です）。
3. 探鳥会の運営は「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」（『しらこぼと』2020年9月号p2-3）に沿って実施する。
4. 参加の必須条件として、各自でマスク、フェイスシールドなどの飛沫防止策を講じる（ご用意のない方は参加をご遠慮ください）。
5. 筆記用具や観察用具（双眼鏡等）は、各自で用意する。
6. 万一、探鳥会開催後に参加者から感染者が出た場合には、参加者名簿を保健所に提出する。
7. 新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない場合は、開催を中止する。中止の場合は、申し込みをされた方へメールで連絡を差し上げます。

### さいたま市・三室地区探鳥会（要予約）

期日：10月31日（土）

集合：午前9時、「みむろ桜広場」（さいたま市立病院バス停（終点）から徒歩約5分）。  
交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から渡り、50m先左手バスターミナルから8:23発東武バス「さいたま市立病院行」で終点下車。

解散：正午前に集合地で解散の予定です。

担当：青木、浅見（徹）、小林（み）

見どころ：9ヶ月が経ちました。懐かしい風景の中でいつもの鳥たちと出会う幸せを。

### 行田市・利根大堰探鳥会（要予約）

期日：11月3日（火・祝）

集合：午前10時30分、行田市見沼元塚（もといり）公園駐車場。

交通：秩父鉄道 羽生9:30発三峰口行き、または秩父鉄道 熊谷9:49発羽生行きに乗車し、行田市で下車。行田市バスターミナルから10:08発行田市内循環バス北東循環コース（左回り）に乗車し「老人福祉センター」で下車。元塚公園駐車場まで徒歩1分。

解散：元塚公園で正午ころの予定。

担当：入山、近藤、佐野

見どころ：カモを中心に水辺の鳥を観察します。上を向いたら猛禽が飛んでいるかも。その他：秩父鉄道および市内循環バスはスイカ、パスモ等が使用できません。

### さいたま市・大宮第二公園探鳥会（要予約）

期日：11月7日（土）

集合：午前9時、大宮第二公園管理事務所前。

交通：東武野田線 大宮公園駅から徒歩約20分。大宮第二公園駐車場が利用可能。

解散：正午前に集合地で解散の予定です。

共催：大宮第二公園管理事務所

担当：浅見（徹）、青木、小林（み）、長野

見どころ：カモなどの冬鳥を中心にのんびり探鳥します。大宮第二公園～芝川～大宮第三公園～大宮第二公園と巡ります。





# 行事報告

1月11日(土) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加: 36(会員32)名 天気: 曇

マガモ カルガモ コガモ ミコアイサ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ バン オオバン イカルチドリ トビ オオタカ カワセミ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (37種) (番外: ドバト) 暖冬で遅れていた冬鳥もほぼ出そろった。公園の池のカモは4種しか見られず寂しいが、ミコアイサのメスが5羽見られたのがうれしい。餌付けもしていないのに年々カモとの距離が縮まってきている。周辺の屋敷林では、冬の小鳥が順当に現れてくれた。 (橋口長和)

2月2日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 57(会員40)名 天気: 晴

オカヨシガモ ヨシガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン チュウヒ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ アカゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (44種) (番外: ドバト) 芝川は急ピッチに河川工事が行われていて野鳥の姿が少ない状況だった。第一調節池周辺の道路ではアオジ、ホオジロたちがお出迎え、池にはカイツブリ類3種、カモ類10種と賑やかだった。後半にはチュウヒが舞い、同時にハヤブサが急降下する姿が見られ、さらに人気のミコアイサのオスも確認できて参加者からの歓声が聞こえてきた。充実した立春

間近の探鳥会を楽しむことができた。(大井智弘)

2月2日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 29(会員24)名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ トモエガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト アオバト カワウ アオサギ ダイサギ トビ ハイタカ ノスリ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ジョウビタキ ハクセキレイ カワラヒワ イカル ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ (39種) (番外: ガビチョウ) 出発して間もなく草地を歩くアオジ、その先にシロハラの姿が。草刈りがすっかり済んでしまったスキの原ではジョウビタキが様々なポーズをとってくれた。ようやく見つけたホオジロ、カシラダカ。一部の参加者はミヤマホオジロも確認していた。梅林に寄り、見ごろ初めの紅梅や福寿草も楽しんだ。山田大沼のカモは数こそ減ってしまったが、トモエガモの姿が3羽見られた。 (中村豊己)

2月5日(水) さいたま市 秋葉の森総合公園

参加: 59(会員57)名 天気: 快晴

カイツブリ キジバト アオサギ ダイサギ クイナ ノスリ カワセミ コゲラ アカゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (33種) (番外: ドバト) 当地最初の探鳥会を祝福するように無風快晴の上天気、参加者も続々増えて59名。2班編成にし、方向をずらして出発。「ゆっくり公園を味わいながら」のつもりが、鳥が次々に出て時間が足りなくなる。自然保護ゾーンでは、ルリビタキ、ジョウビタキ、カワセミ、シロハラ、アカゲラ、キクイタダキなど、ピクニック広場の方ではベニマシコやアカハラ、ホオジロ、アオジなどがでる。班により見られた鳥種は違ったものの、見通しの良い美しい公園で時の経つのを忘れて鳥を探ることができた。 (近藤龍哉)



●県カワウ対策協議会に出席

7月17日(金)午前10時~11時15分、埼玉県教育会館(さいたま市浦和区)にて、埼玉県カワウ対策協議会が開催され、当会から小荷田行男幹事が出席しました。

武蔵丘陵森林公園のアライグマ捕獲数、2019年5月~9月で2頭との報告に、小荷田が年間を通じてのアライグマわな設置を要請。

県によるカワウ調査、6月は中止され、12月と3月の2回へ回数減少するとの報告、など。

●見沼・さぎ山交流ひろば運営協議会総会などに出席

さぎ山記念館(さいたま市緑区)学習室で8月28日(金)9時30分から10時30分まで見沼・さぎ山交流ひろば運営協議会令和2年度臨時総会、10時30分から12時まで令和2年度第2回運営会議が開催され、当会から浅見徹幹事が出席しました。

総会では事務局異動の報告、役員改選などが行われ、運営会議では、「みぬま秋フェス2020 in さぎ山」を中止すること、これにかかわる情報発信策を模索することで意見が一致しました。

同日同館展示室で「私の好きな見沼たんぼ2020」写真コンクール1次審査が行われ、浅見幹事も審査に加わりました。

●ごめんなさいコーナー

8月号6ページ田島団地と彩湖、9月号7ページ別所沼の野鳥情報提供者のお名前、「陶山和義」さんは、「陶山和良」さ

んの誤りでした。

●会員数は

9月1日現在1,505人です。

活動と予定

●8~9月の活動

8月11日(火)、『しらこぼと』9月号入稿。

8月14日(金)、同9月号埼玉事務局発送分納品。

8月17日(月)、同9月号を、『野鳥』誌と同封発送しない会員向け、袋詰め作業、郵便局から発送(海老原教子、海老原美夫、山部直喜)。

8月27日(木)~29日(土)、メール交換による役員会を開催。10月と11月に3回の探鳥会を開催する議案を承認した。

8月31日(月)~9月12日(土)、メール交換による『しらこぼと』10月号編集・校正作業(相原修一、浅見徹、海老原美夫、長嶋宏之、藤原寛治、森本國夫、山口芳邦、山部直喜)。

編集後記

「アブラゼミって美味しいのかもしれない。いろいろな鳥が捕食しているのだから、人が食べたって…」などと妄想したのは、連日の暑さのせいかもしれない。(山部)

探鳥会をなかなか開催出来ず、『しらこぼと』が、会員の皆様と当会を直接つなぐ唯一のものになっています。本部の『野鳥』誌も2ヵ月合併発行の回数が増えましたが、『しらこぼと』は減ページながら、毎月発行を目指しています。編集部長も妄想に負けず、頑張っています。(海)

しらこぼと 2020年10月号(第439号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 URL http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamazekuzoku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社